

社 會 式 株 式 會 社 日 本

特 256

251

覽 要 頭 準 崎 川

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25

始



3

5

特 256
251

日 株 式 會 社 川 崎 埠 頭 要 覽

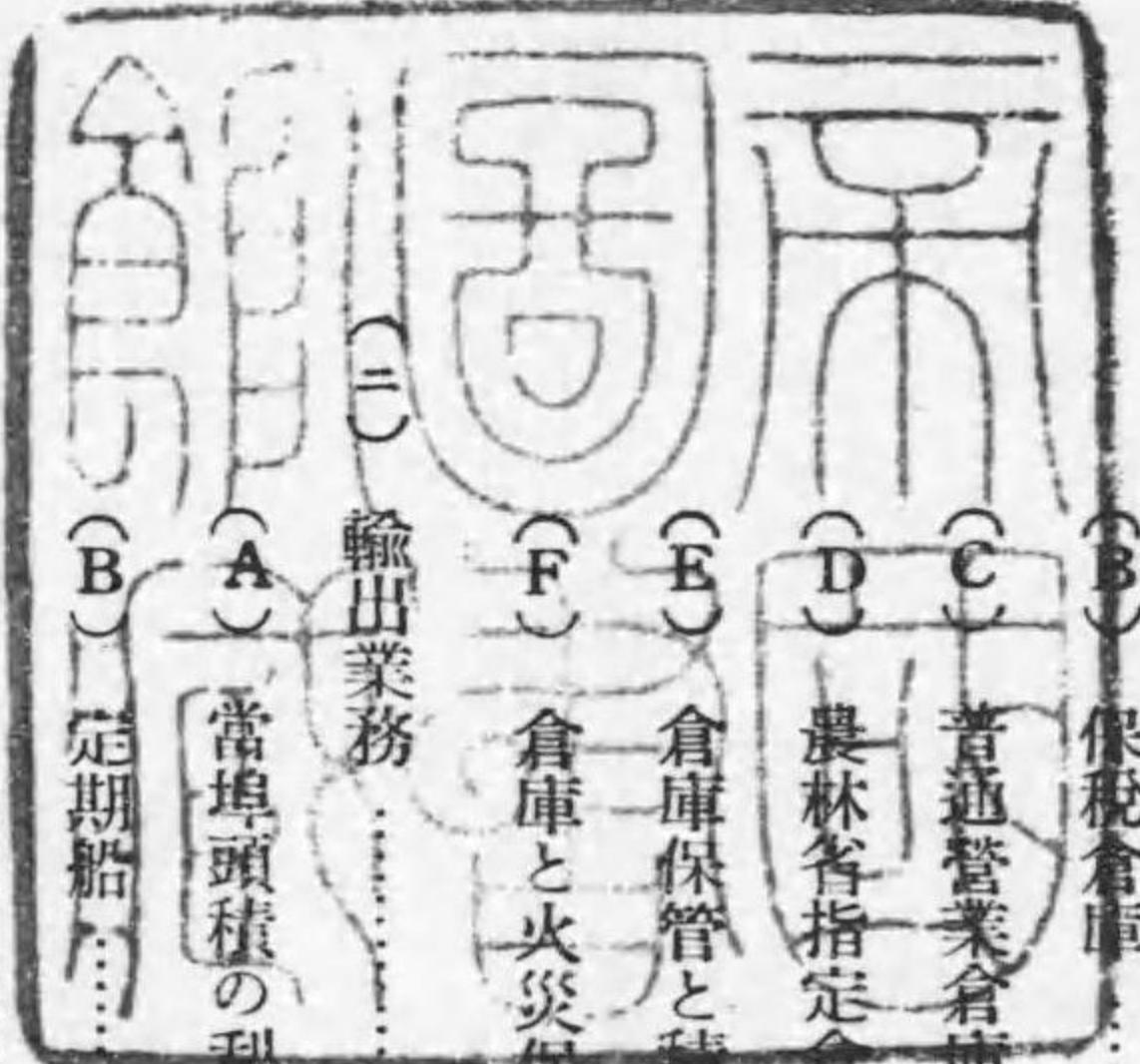


昭 和 九 年 九 月

目次

一、沿革と使命	一
二、日滿倉庫株式會社と埠頭	一
三、海より見たる埠頭	三
(イ) 位置	三
(ロ) 入港の順路と發着 (横濱港全圖)	三
(ハ) 繫船棧橋	四
(ニ) その他の繫船場	四
(ホ) 本船給水	五
(ヘ) 本船荷役と能率	五
(ト) 風位風速其他	六
四、陸より見たる埠頭	七
(イ) 位置と専用鐵道	七
(ロ) 輸入業務と滿洲特産物	七
(A) 當埠頭の特長	七
(B) 配車状態	八
(C) 貨車積込能力	八

(D) 發送能力	九
(E) 作業料金率	九
(F) 鐵道運賃	一〇
(ハ) 倉庫業務	一二
(A) 保税上屋	一四
(B) 保税倉庫	一四
(C) 普通營業倉庫	一四
(D) 農林省指定倉庫	一四
(E) 倉庫保管と積合發送	一四
(F) 倉庫と火災保險	一五
(ニ) 輸出業務	一五
(A) 當埠頭積の利便	一五
(B) 定期船	一五
(C) 運送代理業務と特約運送店	一六
(ホ) 石炭作業	一六
(A) 設備	一六
(イ) プリツチトランスポーター	一六
(ロ) 貯炭場	一七

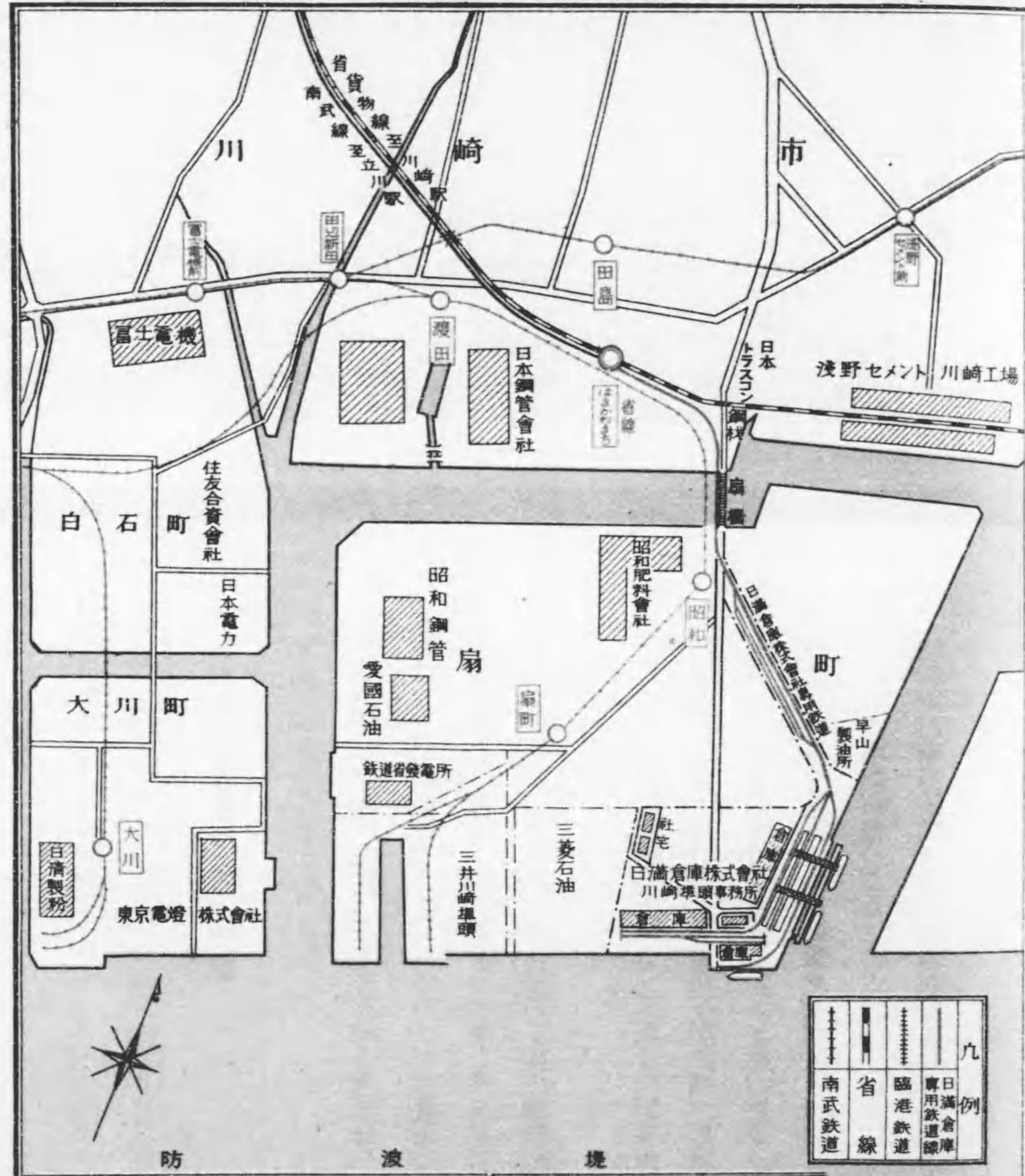




川崎市附近路圖

(ハ) ホツパー	一七
(ニ) 解溜場	一八
(ホ) 自動車計量機並軌道衝	一八
(ニ) 昇開橋	一八
(ト) 照明塔	一八
(B) 石炭鐵道運賃	一八
五、通關事務	二一
(イ) 通關上の協力と代理事務	二一
(ロ) 通關上の便利	二一
六、施設一覽	二二
(川崎埠頭一般圖)	二二
◎附録	
統計表	二六
(イ) 滿洲特産物の横濱港への輸入高	二六
(ロ) 石炭の横濱、東京方面への移輸入高	二九
(ハ) 滿蒙輸出入高(横濱港)	三〇
(A) 輸入の部	三〇
(B) 輸出の部	三一

日滿倉庫株式會社川崎埠頭附近平面圖



九	日滿倉庫
〓	專用鐵道線
〓	國港鐵道
〓	省線
〓	南武鐵道

埠頭ニ至ル順路

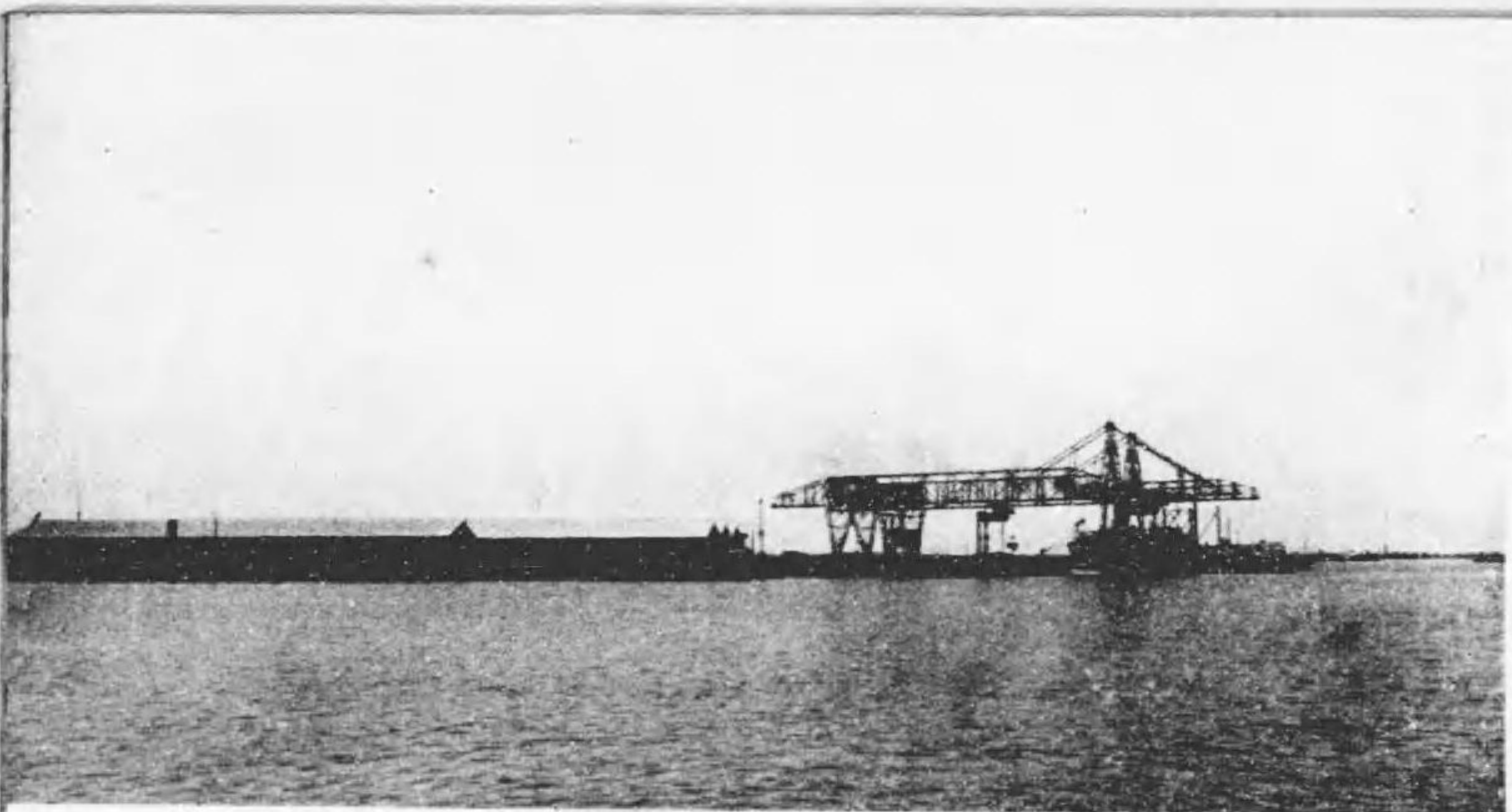
◎自動車ニヨル場合

- 一 京濱國道川崎市新川橋ヨリ田島縣道ニ入り「四ツ角」扇橋ヲ經テ埠頭ニ至ル、

◎省線ニヨル場合

- 一、川崎驛下車
驛前乗合自動車「三井埠頭行」ニヨリ「日滿埠頭」下車
- 二、鶴見驛下車
鶴見臨港鐵道「扇町行」ニ乗換「昭和驛」下車

日滿倉庫株式會社
川崎埠頭全景



一、沿革と使命

當埠頭は南滿洲鐵道株式會社の計畫施設に係るものにして日滿倉庫株式會社は此の埠頭經營をなさしむる目的を以て設立せられたるものなり。南滿洲鐵道株式會社は**日滿貿易の助長と増進**とを目的として當地に埠頭計畫を樹立し昭和六年一月一日其の工事に着手し爾來三年三箇月の歲月を閲し棧橋、倉庫、荷役機、専用鐵道等諸般の設備を完成せり、依つて昭和八年三月當社は川崎埠頭事務所を開設し、同年六月其の業務を開始するに至り。

當埠頭施設は純然たる貨物本位にして、海陸連絡上其の經濟的荷役と作業能率の増進とは漸次港灣諸掛の軽減、鐵道運賃の低下、荷役時間の短縮、商取引の圓滑等諸種の利便を齎らし以て滿洲特産大豆粕、大豆、雜穀、銑鐵、撫順炭等其の輸入上將又我國生産品の滿洲輸出上に多大の貢獻をなすものたることを確信するものなり。

二、日滿倉庫株式會社と埠頭

當社は昭和四年五月創立せられ資本金五百萬圓にして全部滿鐵の出資に係り其の監督の下に經營せらる。



日滿倉庫株式會社
川崎埠頭事務所

當社の營業科目左の如し。

(イ) 倉庫業

(ロ) 運送業

(ハ) 貨物の揚卸荷役、通關並運送取扱業

(ニ) 上記の附帶事業

本社所在地

東京市麴町區丸ノ内二丁目二番地ノ一

丸ノ内ビルディング五階五四四區

電話 丸ノ内三、六五五番

川崎埠頭事務所所在地

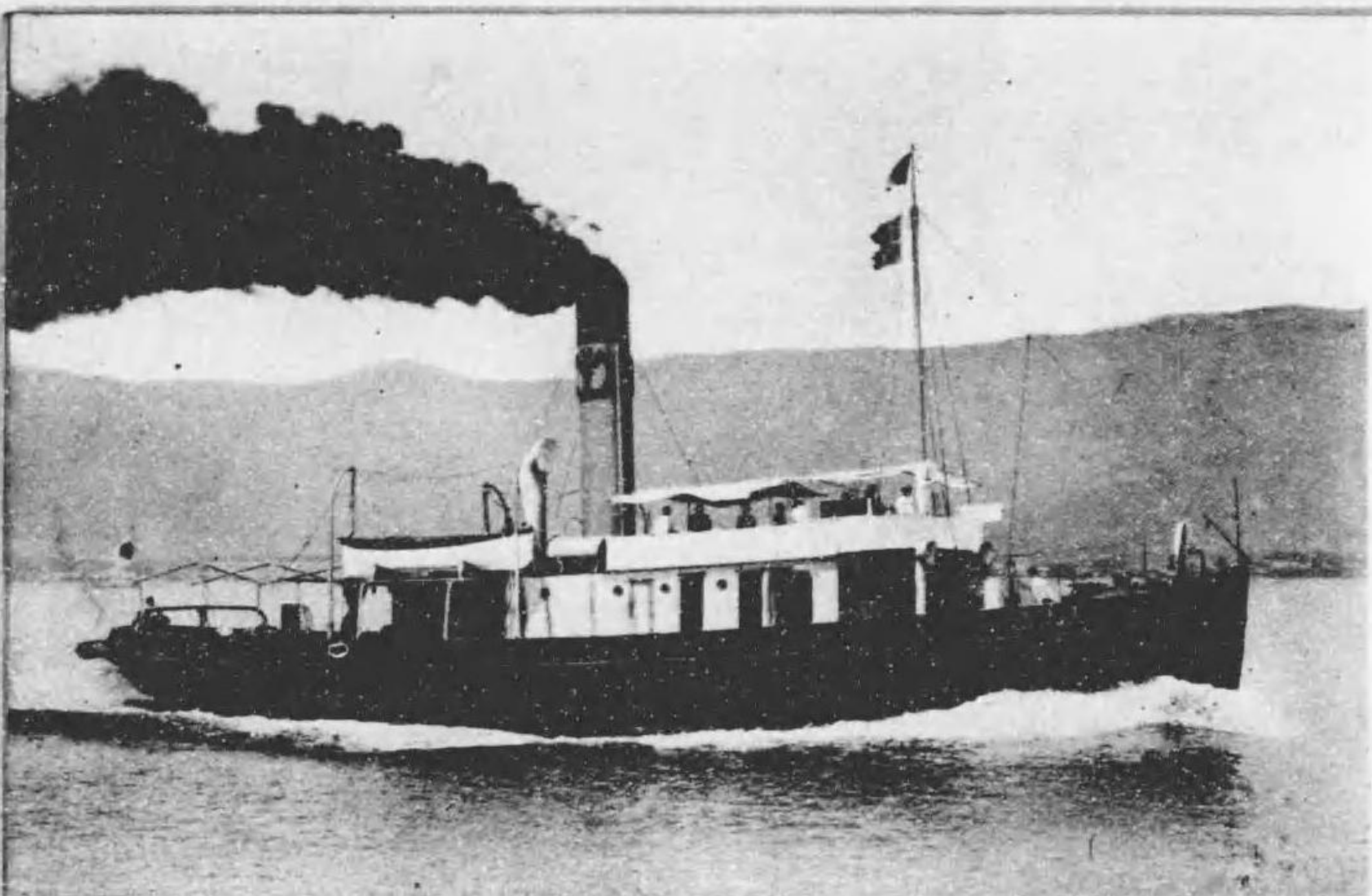
神奈川県川崎市扇町三十七番地

電話 川崎 二、五三六番 三、四二六番 二、六三六番

二、〇六五番 二、四二八番 三、三六三番

南滿洲鐵道株式會社は川崎埠頭と同様の趣旨に依り昭和六年三月より大阪市櫻島地先に埠頭施設を築造中にて、昭和十年三月其の諸施設竣成と同時に是又當社の經營する處となり當社は同地に別に大阪埠頭事務所を設立し之か營業を開始する豫定なり。

圓 島 丸



三、海より見たる埠頭

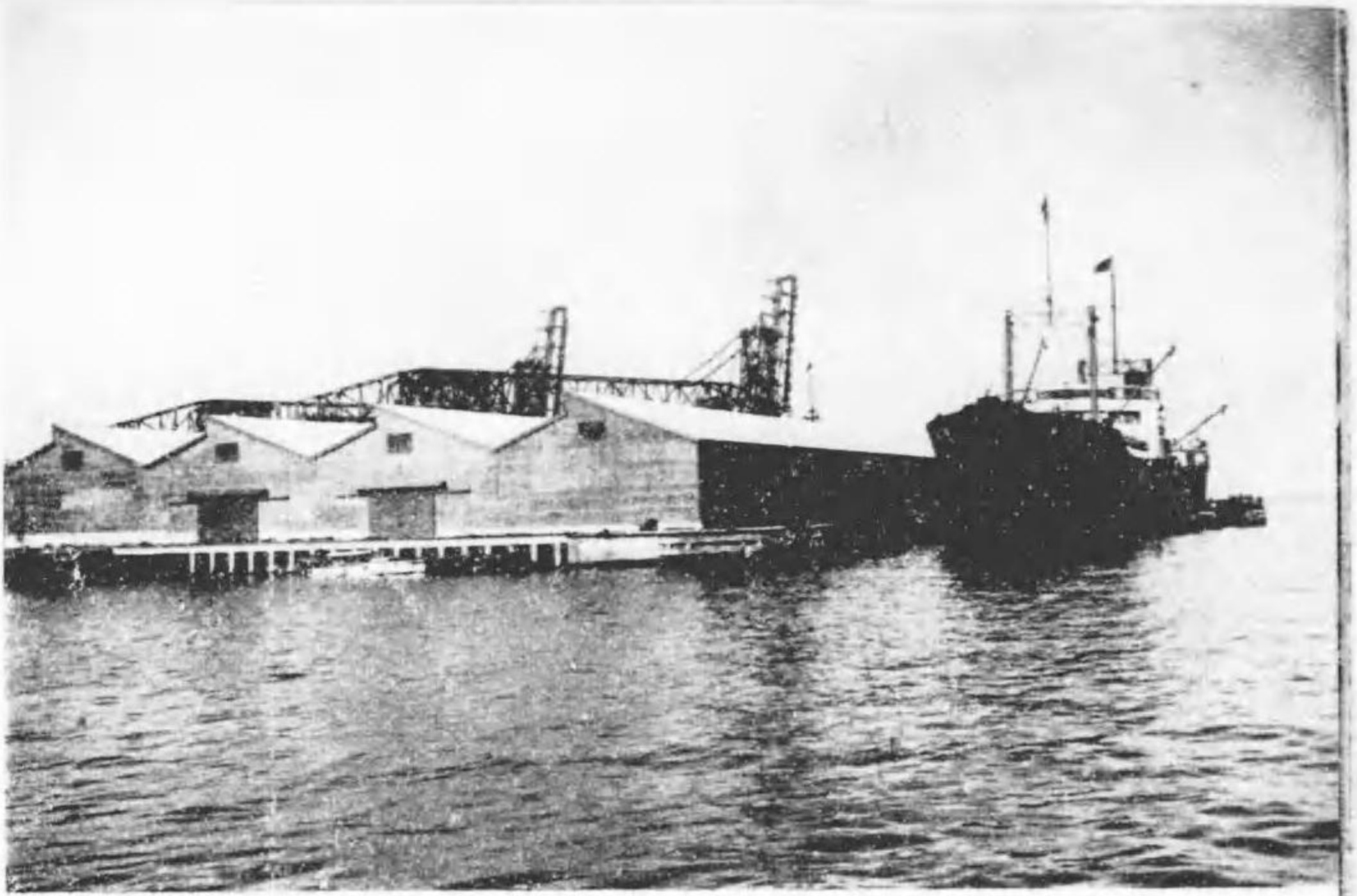
(イ) 位 置

當埠頭は横濱港に屬す、其の地方行政の區分上、川崎市に屬するか爲る往々横濱港にあらざるか如く思惟せらるゝ傾あり、元來横濱港は第一區、第二區、第三區、第四區(開港港則別表第一號參照)に區別せられ當埠頭は別圖明示の通り其の第四區に所在し當埠頭と横濱港第一區とは全く指呼の間に在り大連、營口、羅津、雄基、清津其の他の諸港灣より本船の入港する場合は時間的に大差なく横濱港の大防波堤竣工の曉には此等の差は自然解消するに至らん。

船運賃關係に於ても高低なく、就中當埠頭より東京方面へ船輸送せらるる場合、海上保險割増率に於て却つて相當低下せらるべき有利の地位に在ることは一般の熟知せらるる所なり。

(ロ) 入港順路と發着

次に船舶の當埠頭に着埠する順路は檢疫錨地より北に一哩餘にして京濱運河の基點防波堤内に入り東に水深九米乃至一〇米、可航幅員三〇〇米の水路を約二哩航行して當埠頭に達す、當埠頭は小蒸汽船圓島丸(總噸數二二四噸三五、六五〇馬力)を以て本船を曳航し雜貨、石炭の



各棧橋に夫々繋留せしむ。

パースの順番は右炭棧橋は北側より第一番パース、第二番パースと區別し雜貨棧橋は之を第三番パースとす。

當埠頭は別に埠頭使用料を收受せず又埠頭繋留日數に關せず本船の繋離作業に對してのみ發着手数料を收受す。

其の料率左記の通りとす。

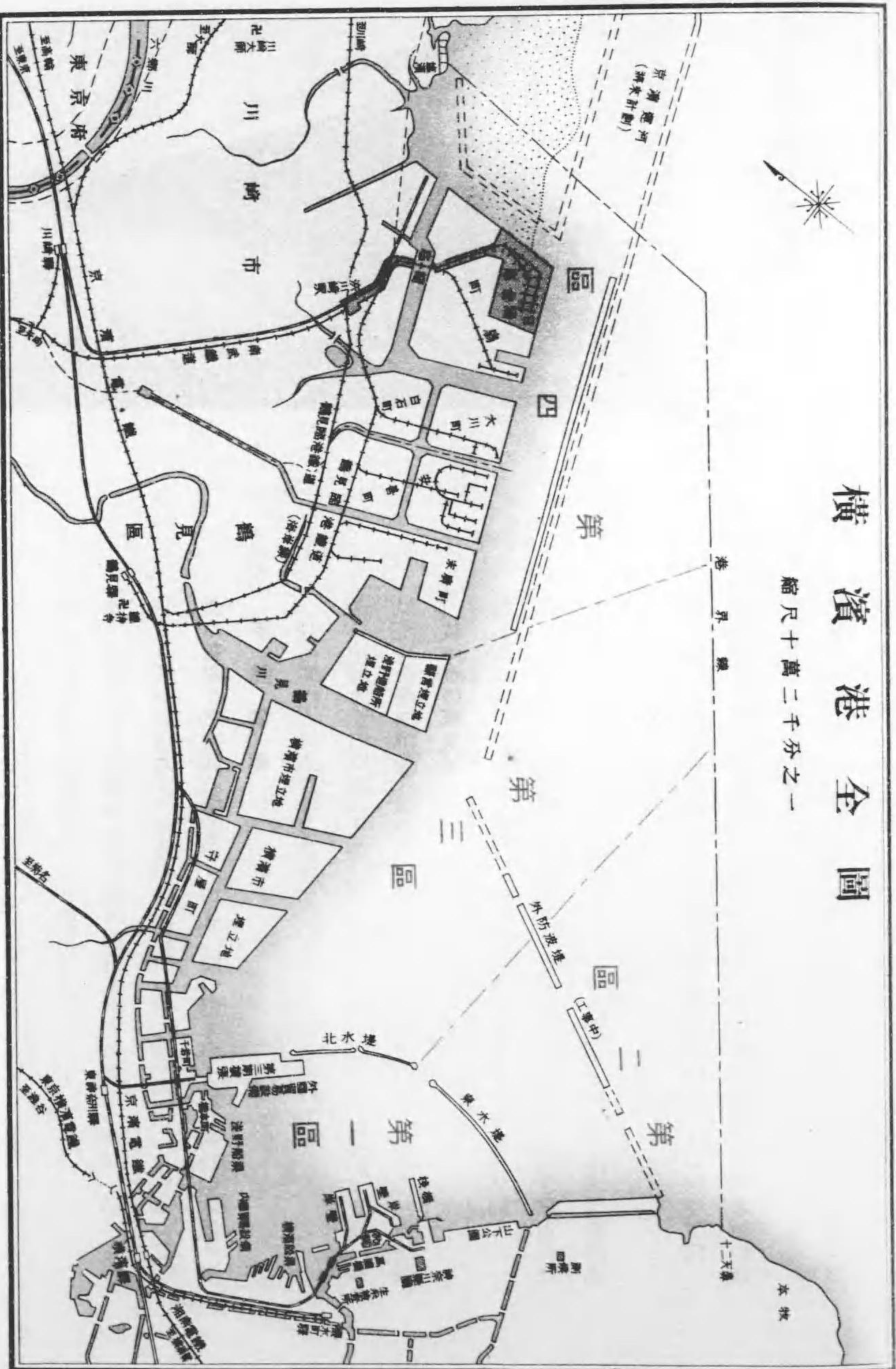
船舶發着手数料

總噸數	料率(一回の着離に付)
三、〇〇〇噸未満	七〇圓
四、〇〇〇噸〃	八五圓
五、〇〇〇噸〃	一〇〇圓
六、〇〇〇噸〃	一一五圓
六、〇〇〇噸以上	一三〇圓

(ハ) 繋船棧橋

雜貨棧橋は所謂京濱運河に沿ひ延長一五七米にして現在は壹萬噸級壹隻を繋留することを得るも不遠一〇〇米内外延長の計畫にして之か完成の曉には優に壹萬噸級貳隻を繋留し得へし。

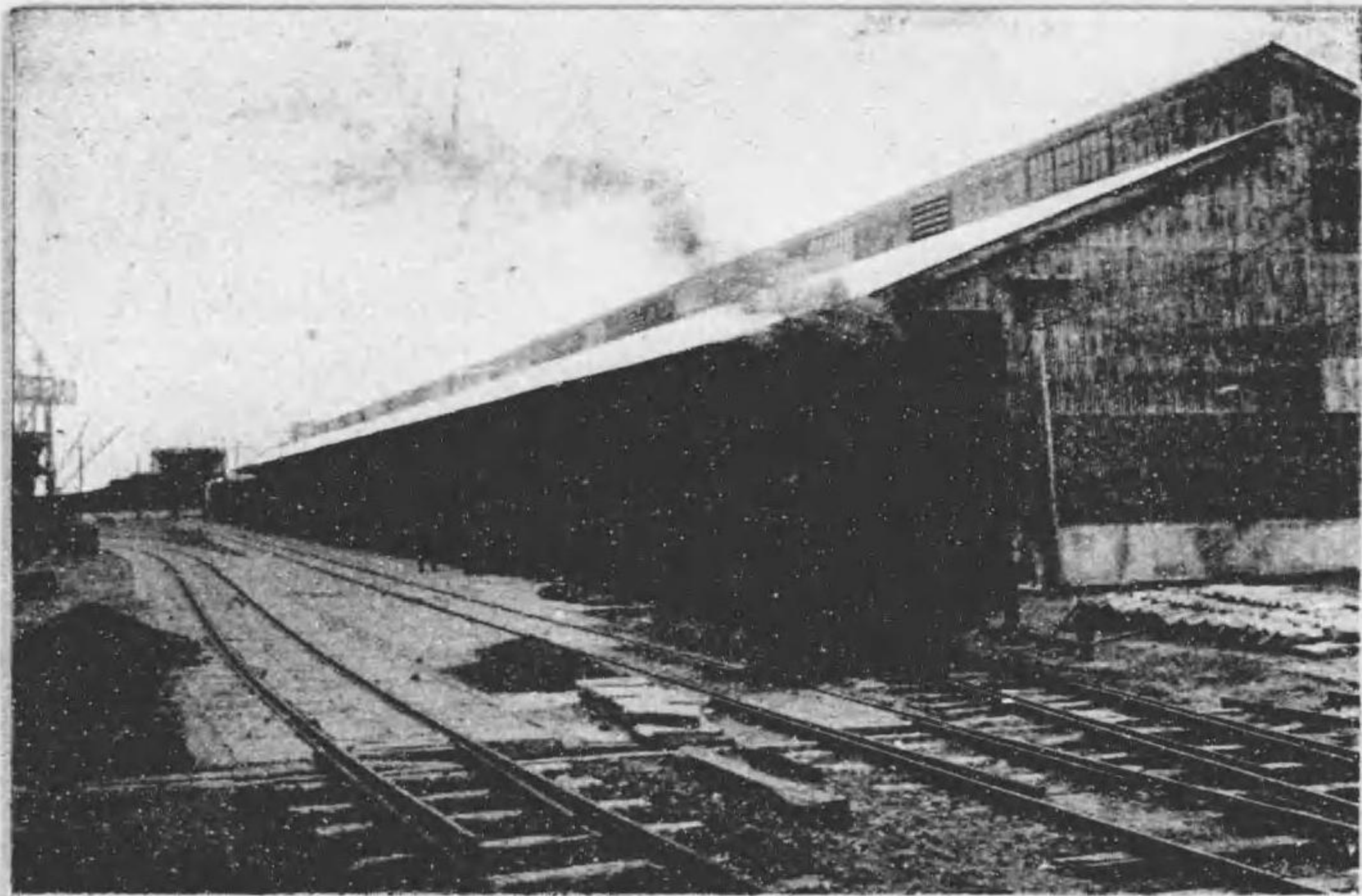
當棧橋と前方防波堤間の距離は五五〇米にして此の水面中最低干潮面



横濱港全圖

縮尺十萬二千分之一

上屋及専用線貨物列車



下九米乃至一〇米の水深を有する可航幅員は三〇〇米なり棧橋の構造は鉄筋混泥土造の「エブロン」を約六米突出し此の上に繫船柱・防舷材等の設備ありて繫船上安全なり。

石炭棧橋は東方の所謂百間運河に沿ひ二九三米の延長にして水深は最低干潮面下九米可航幅員一三〇米なり當棧橋は將來北方に向つて約一四〇米程延長の豫定なり。

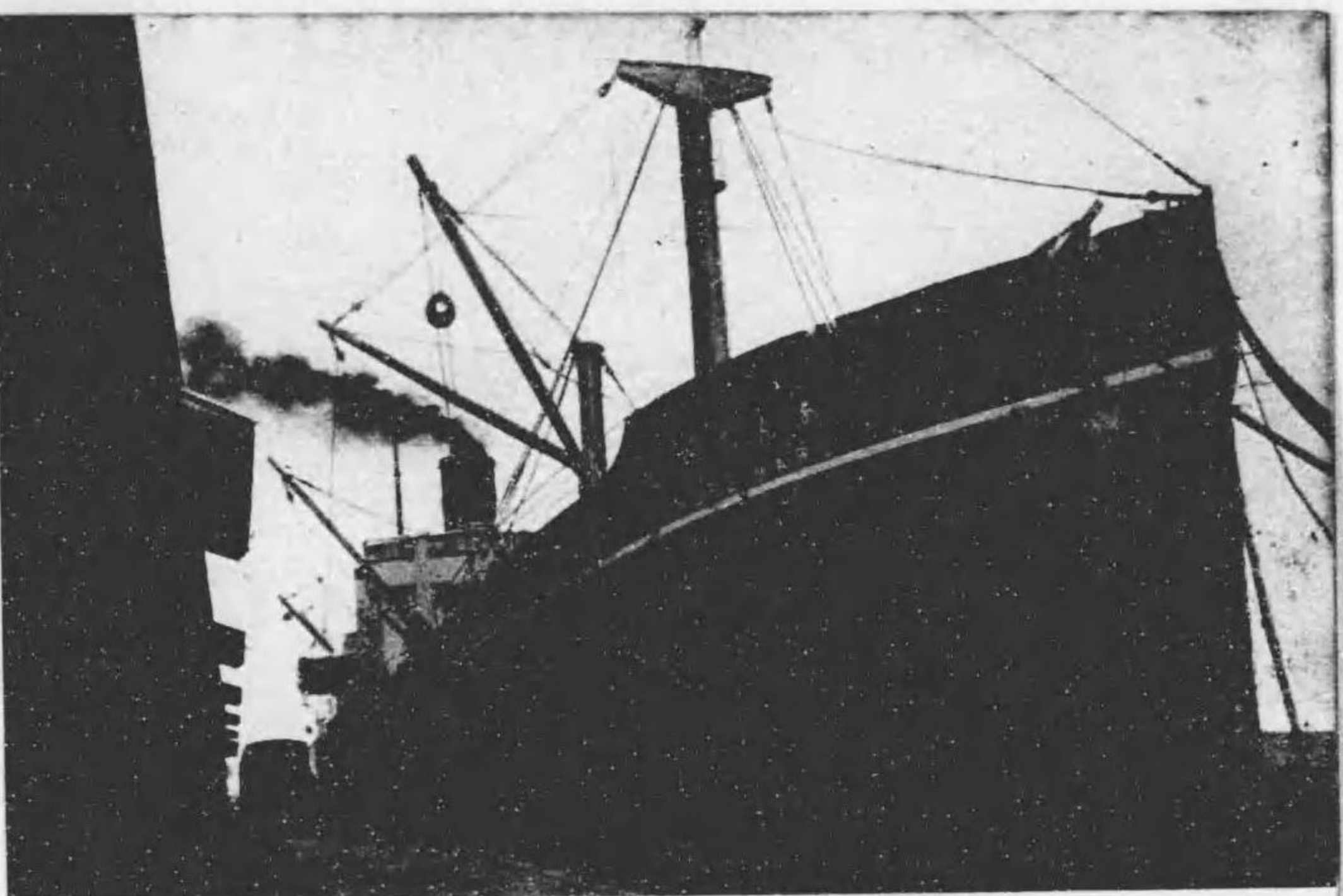
本棧橋は貯炭場護岸より幅員二〇米の靜溜水路を隔て幅七米の鐵筋混泥土「フレーム」型の獨立棧橋にして普通之を平行棧橋と稱し垂直防舷材、浮防舷材、防衝材を整備し約二〇米の間隔を以て繫船柱を設く。

(三) 其他の繫船場

以上の外船舶輻輳の場合の繫船方法として雜貨棧橋と三菱石油會社棧橋の中間水面に投錨の上船尾を當埠頭構内の繫船柱に繫留して第一區の防波堤内と異ならざる荷役をなし得るの準備を有す。

(ホ) 本船給水

給水設備は雜貨並石炭棧橋上に各二個の給水栓を設け横付の本船へ岸壁より直接に給水す、給水能力は現在の處一時間約三〇立方米(三〇噸)程度なるも川崎市水道設備の擴張工事完成後は一時間一〇〇立方米(一〇〇噸)に増大せらるる豫定なり。



特産物の荷役

尙當埠頭は晝夜の別なく給水作業をなすを以て本船給水上支障を生ずることなし。

給水料金は毎立方メートルに付金參拾五錢にして低廉なり。

(一) 本船荷役の能率

當埠頭の本船荷役は一時間二「ハッチ」に付き豆粕二、五〇〇枚乃至三、〇〇〇枚、雜穀六〇〇袋乃至七〇〇袋、雜貨三〇噸乃至五〇噸にして本船の「ハッチ」數に依り差異あるも滿洲特産物に對する揚荷役力は平均一日三、〇〇〇噸にして八、〇〇〇噸積載船舶は三日にて揚切となり横濱港第一區の荷役に劣らず、尙貨物陸揚作業と併行し貨車發送をなし得るを以て埠頭にて荷役をなすことの有利なるは言を俟たず。

(二) 風位風速其他

神奈川縣測候所調に依れば横濱港に於ける最多風位及風速は一月より四月迄北三、八秒米、五月より八月迄南三、四秒米、九月より十二月迄北々西三、五秒米にして當埠頭に於ても之と大差なく、石炭棧橋は其の方向南北なるを以て前記風位に適し雜貨棧橋は東西なるも其の全長に沿ひ高さ一〇米の上屋により庇護せられ孰れも船舶は安全にして荷役能率に影響せず。

當埠頭に於ける潮汐の流れは極めて緩漫にして船舶の繋留に何等の支障なく海底の地質は軟泥にして錨泊に適す。

四、陸より見たる埠頭

(イ) 位置と専用鐵道

當埠頭専用線は直接省線濱川崎驛に接続し發着貨物の取扱は貸切扱のものに限定せらる。

小口扱の場合は省線川崎驛（濱川崎驛にあらず）或は臨港鐵道の扇町驛より「トラック」により當埠頭間を連絡す。

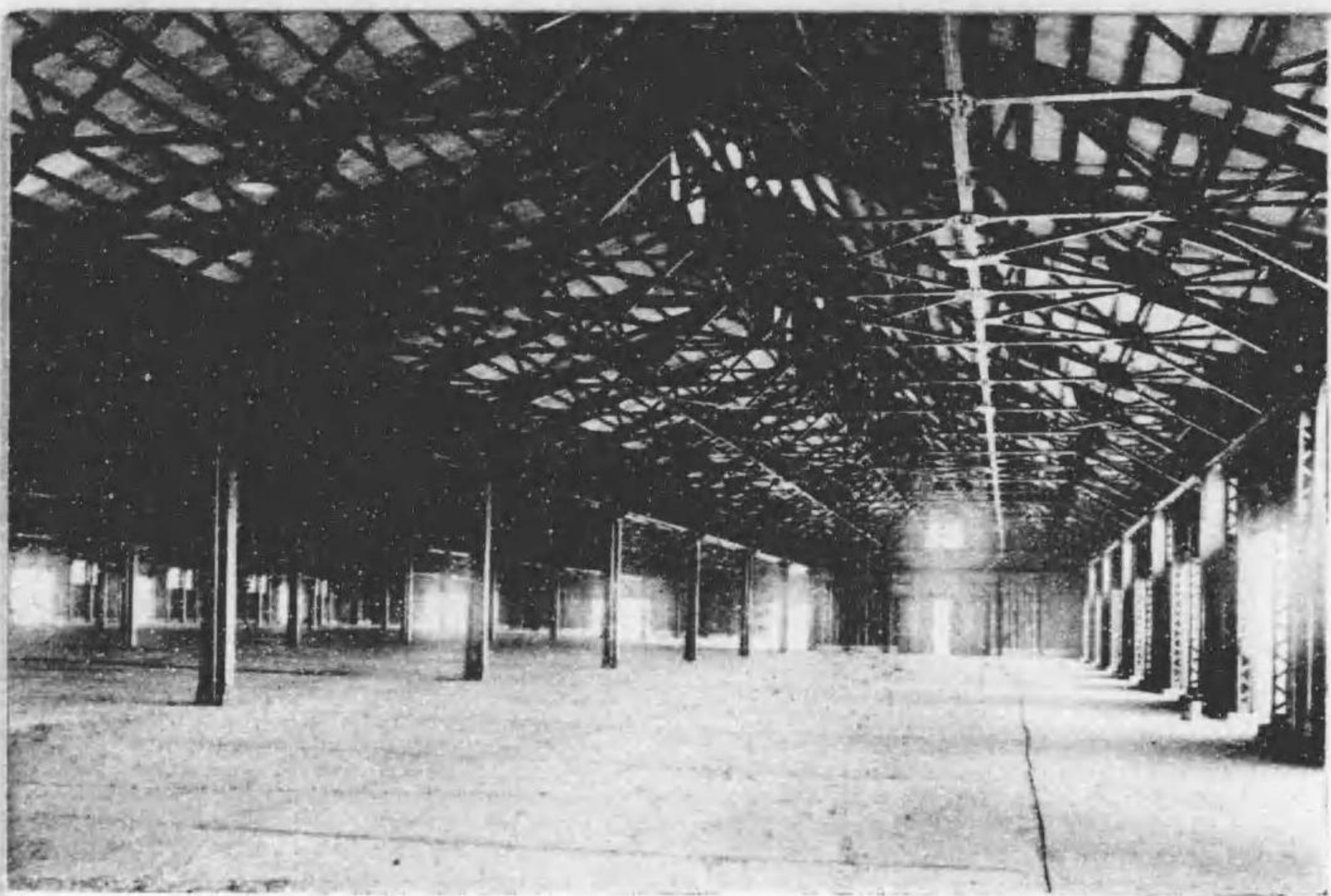
參考

當埠頭専用線は鐵道省關係に於ては南滿洲鐵道株式會社専用線と稱せられ居るを以て當埠頭宛に貨物を發送する場合は濱川崎驛（滿鐵専用線入）と記入せられたし。

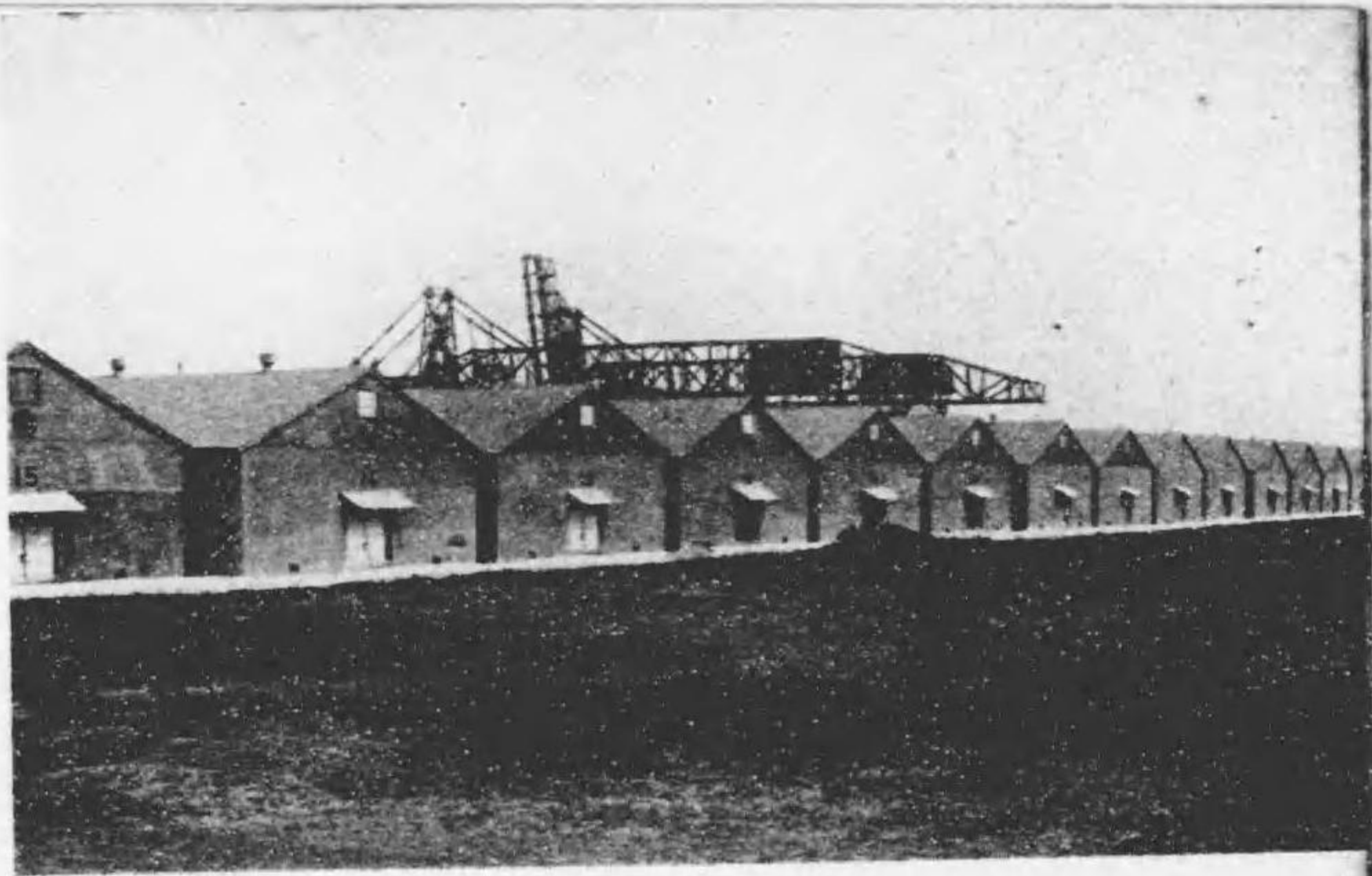
當専用線は總延長六軒半第一番線より第八番線迄圖示通り棧橋並倉庫に近接して施設せられ、本船、倉庫、石炭の各荷役に至便なり。

(ロ) 輸入業務と滿洲特産物

(A) 當埠頭の特長——滿洲特産物に就て説明すれば本船か棧橋に横付せらるると同時に大豆粕、雜穀、其他滿洲特産物の大部分は



私設保税上屋内部



普通倉庫の一部

本船直側の線路に用意せる貨車に直に積込まるるを以て荷傷、漏損、破碎の心配なく、之れを貨物か本船より舢、舢より陸揚の上貨車積せらるる舢沖荷役の場合に比較すれば格段の相違にして而かも貨車積込の作業時間は短縮せられ貨物は迅速且つ正確に夫々其の着驛に向つて發送せらるる等船車連絡の長所を遺憾なく發揮し得るは當埠頭の特長なり。

港灣並に埠頭に於て其の背後の生産及消費地帯との海陸輸送上其の連絡施設が整備出現せらるる場合は特殊の事情なき限り舢沖荷役に依存するは時代錯誤にして當埠頭の船車連絡施設は正に時代の要求に適應するものなり。

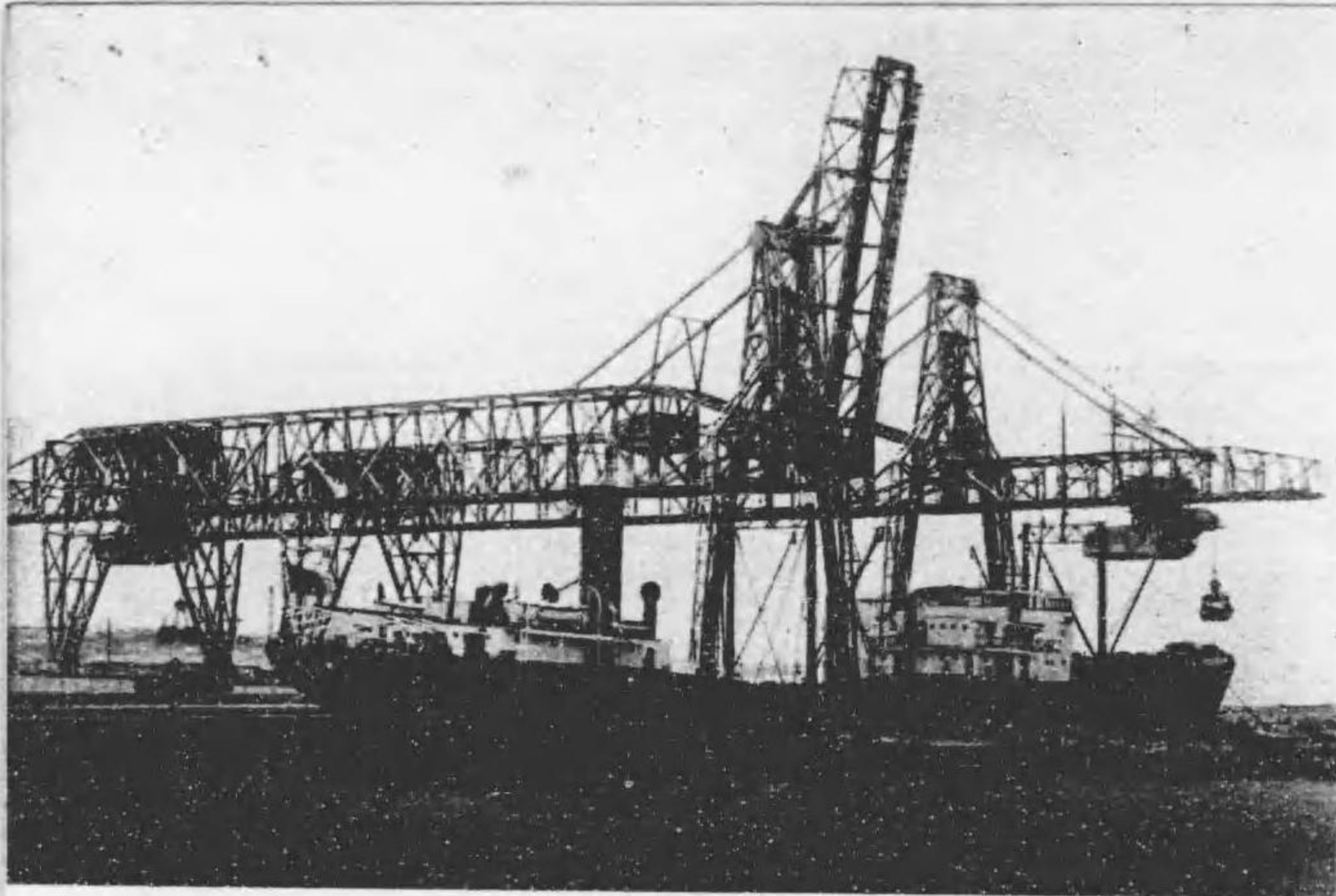
(B) 配車状態——當專用鐵道は直接省線濱川崎驛に接続し貨車配給は省線同様の取扱を受け得る配車上何等の懸念なく請求車数は直ちに相違なく配給を受け得る確信あり、配車の驚異的敏捷なることは既に普く認識せらるる處にして鐵道省に於ても當會社か夜業をも厭はず配給貨車の活用に誠意と熱心とを盡し居ることに好感を以て迎へられつつあり。

(C) 貨車積込能力——至極能率的にして側線の貨車廻入状態、機關車の入換状況並人夫の作業能率等從來の實例に依れば一日百車強

の積込可能なり。

(D) 發送能力——一日數回の引出列車あり約百輛の發送を遂行し得らる。

ブリツチトランスポーター
及平行機橋と船舶荷役



参考 構内の貨車發着作業には當埠頭所有機關車を使用するを以て操作の機敏なることを俟たず。
之を要するに配車、積込並發送方面に就ては從來の實例に徴し他驛に比較し毫も遜色なきことを確信す。

(E) 作業料金、運賃關係

作業料金率 一般雜貨	
○貨車積賃	每輛 金參拾錢
○專用線運搬賃	同 金參拾錢
○貨車卸賃	同 金參拾錢
○船積賃	同 金五拾錢
○陸揚賃	同 金五拾錢
○船内人夫賃	同 金參拾錢

右の料金率に依れば當埠頭に於て一車扱にて到着船積又は陸揚發送の場合は毎輛金壹圓拾錢となり大体横濱第一區にて舢沖積又は舢沖取の場合に比し低廉なり。

(大量貨物又は特殊品に對しては夫々別に御相談に可應又小口扱のものに關しては「運送代理業務と特約運送店」の項に於て記述す)

大豆粕、雜穀其の他滿洲特産物に對する料金は荷主の專屬回漕店との特約により横濱第一區の場合よりも低廉なり。

(F) 鐵道運賃——當埠頭の專用線の接續驛たる省線濱川崎驛より各驛に至る鐵道運賃を東横濱驛よりの貨率と比較すれば左記の如くにして當埠頭を利用すれば**東北、信越、關東**方面にては**概算每廂五錢乃至拾錢有利**となり自然競争力を強化し新開拓に寄與するに至るへし

豆粕、雜穀運賃表

線名	驛着	東横濱		濱川崎		兩國		隅田川	
		料程	料金	料程	料金	料程	料金	料程	料金
東海道線	平塚	四、一	〇、八五	四、七	〇、九五	四、八	〇、九五	四、四	一、四〇
横濱線	原町田	三、一	〇、五〇	三、四	〇、六	三、三	〇、八	三、一	〇、九
中央線	甲府	三、六	一、九五	四、二	一、八〇	四、八	二、二	三、六	一、八五
中央線	下諏訪	三、七	二、五〇	四、六	二、五〇	三、七	二、六〇	三、〇	二、五〇

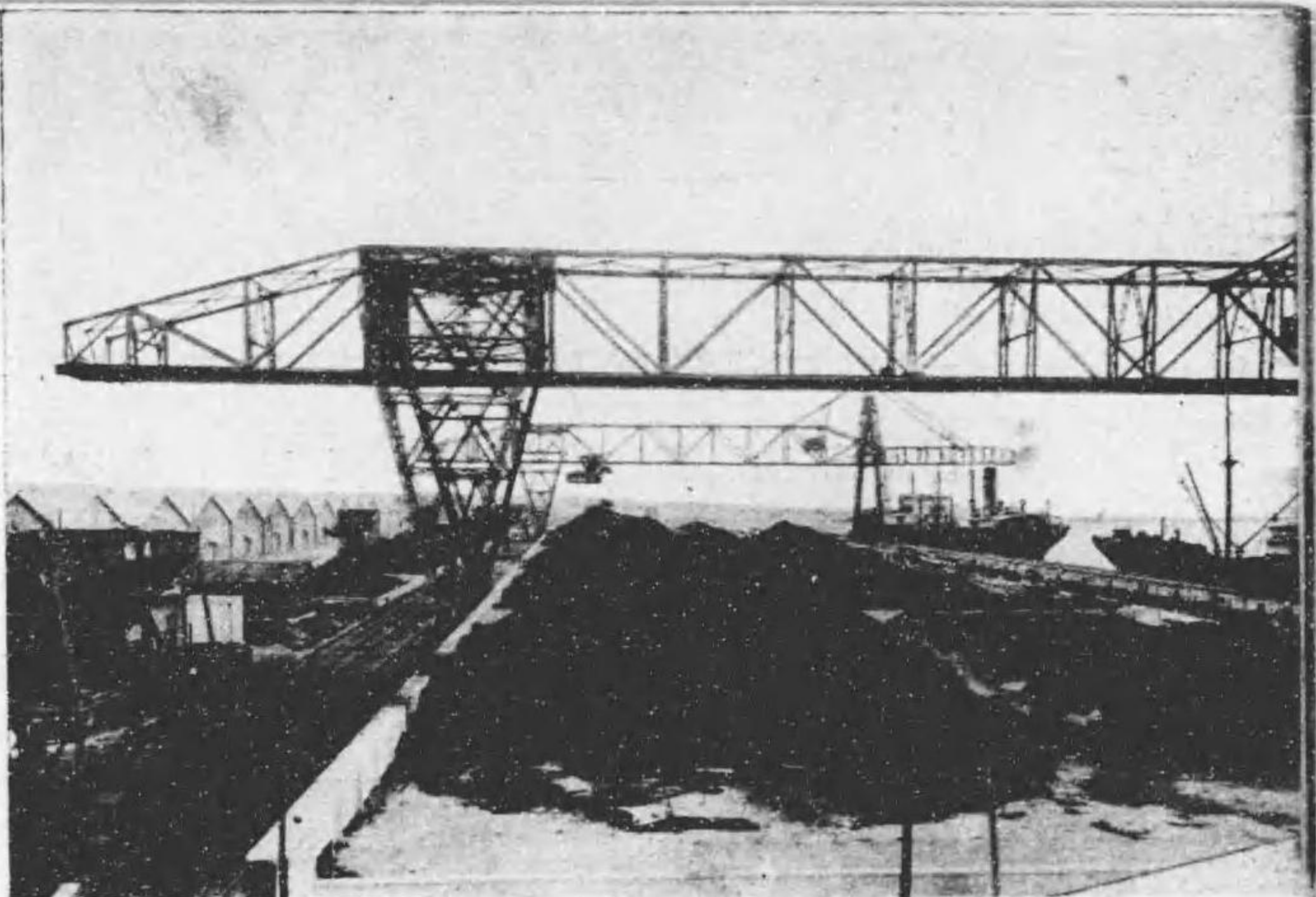
線名	驛着	東横濱		濱川崎		兩國		隅田川	
		料程	料金	料程	料金	料程	料金	料程	料金
總武線	千葉	九、一	一、五〇	八、三	一、三〇	六、六	〇、七五	四、九	〇、六
總武線	銚子	七、八	二、二六	六、〇	一、九二	二、七	一、七五	二、八	一、五
成田線	佐原	三、四	一、九五	二、七	一、四	九、〇	一、五〇	九、〇	一、三
成田線	小見川	四、一	二、〇五	四、三	一、八〇	四、七	一、六五	四、九	一、四
總武線	野田町	九、二	二、〇二	八、四	一、八八	五、九	一、三	五、〇	一、〇
東本線	小山	二、五	一、七五	二、八	一、四八	九、五	一、五五	七、三	一、四〇
東本線	白河	二、二	二、六〇	二、四	二、一九	二、七	二、五〇	一、八	二、一
東本線	須賀川	四、一	二、八〇	三、八	二、七〇	三、〇	二、七〇	二、二	二、一
東本線	郡山	五、六	二、八〇	四、九	二、八〇	四、五	二、八〇	三、三	二、〇
東本線	久喜	七、九	一、三五	七、一	一、二五	六、八	一、二	六、六	〇、九
常磐線	水戸	一、九	一、八六	一、八	一、八六	二、七	一、七五	一、四	一、五
常磐線	勝田	一、四	一、九二	一、七	一、八六	二、三	一、八五	二、〇	一、四
常磐線	佐貫	一、八	一、五〇	一、〇	一、二五	四、七	〇、九五	四、六	〇、八
常磐線	柏	七、六	一、三五	六、四	一、〇三	二、八	〇、六〇	二、六	〇、五
常磐線	那珂川	一、〇	一、九二	一、五	一、八六	一、八	一、七五	二、五	一、五
水郡南線	太田	一、九	二、二六	一、七	一、九八	三、六	一、九	一、七	一、七

足尾線	上越線	線	毛	兩	線武東	線	崎	高	水戸線
大間々	群馬	前橋	伊勢崎	栃木	佐野	館林	羽生	本庄	下館
一七、一	一四八、一	一四、八	一五、六	一三、二	一三、二	一〇六、八	九八、四	二七、〇	二七、八
二、三六	二、〇五	二、〇五	二、三三	一、九五	一、九五	一、五五	一、五五	一、五五	一、八五
一、九八	一、八〇	一、八〇	一、八六	一、七二	一、七二	一、四八	一、四〇	一、五	一、四
一、四〇	一、四〇	一、八〇	一、五〇	一、二四	一、二四	九、〇	九、〇	二〇九、二	二〇、〇
二、二九	二、〇五	一、九五	二、三三	一、七五	一、七五	一、五五	一、五〇	一、三〇	一、七五
一、九二	一、八〇	一、七三	一、八六	一、五二	一、五二	一、四〇	一、三五	一、四八	一、五
一、五七、七	一、三六、〇	一、三三、七	一、四六、五	一、一〇、三	一、一〇、三	七、六、六	七、〇、二	一、四九、九	一、五七、七
二、三二	一、九五	一、九五	二、〇五	一、七五	一、七五	一、三五	一、三〇	一、六五	一、七五
一、八六	一、七二	一、七二	一、八〇	一、五	一、五	一、二〇	一、一五	一、四八	一、五
一、三六、五	一、二四、八	一、二三、五	一、二五、三	八、九、一	八、九、一	七、八	六、四	八三、七	九四、五
一、九五	一、七五	一、七五	一、八五	一、四五	一、四五	一、三〇	一、二六	一、四〇	一、五〇
一、七	一、五	一、五	一、四	一、三〇	一、三〇	一、一五	一、一〇	一、四〇	一、三五

(ハ) 倉庫業務
 當埠頭の倉庫敷坪數左の如し。

倉庫番號	棟數	一棟當り坪數	合計坪數
第一號	一	七、九三四 (平方米) (二、四〇〇坪)	七、九三四、四 (平方米) (二、四〇〇坪)
自第二號至第十六號	一五	六六一、二 (平方米) (二、〇〇坪)	九、九一八、〇 (平方米) (三、〇〇〇坪)
第十七號	一	二、六四四、八 (平方米) (八〇〇坪)	二、六四四、八 (平方米) (八〇〇坪)
自第十八號至第二十七號	一〇	六六一、二 (平方米) (二、〇〇坪)	六、六一二、〇 (平方米) (二、〇〇〇坪)
合計	二七	二七、〇九九、二 (平方米) (八、二〇〇坪)	二七、〇九九、二 (平方米) (八、二〇〇坪)
建築豫定のもの			
第二十八號	一	三、三〇六、〇 (平方米) (一、〇〇〇坪)	三、三〇六、〇 (平方米) (一、〇〇〇坪)

前記二、四〇〇坪の大倉庫は専ら輸出入貨物の船積、陸揚、荷捌及保管を目的として雜貨棧橋に建設され側線を備へ本船荷役能率發揮上理想的に設計せられ貨物收容能力は大豆約五〇〇、〇〇〇枚、大豆は約一七〇、



貯炭場

〇〇〇袋なり。

(A) 保税上屋——輸出入貨物の税関手續未済のものを一時藏置する場所にして第一號倉庫の一部を之に充當し「私設保税上屋規則」に依り取扱はるるものとす。

上屋藏置中の貨物に對しては一定の期間は倉敷料を收受せず、火災保險は荷主の要求なきときは當埠頭として之を附せざるものとす。

(B) 保税倉庫——目下其の筋へ申請手續中にして許可の上は保税倉庫證券を發行する豫定なり。

(C) 普通營業倉庫——一般の寄託貨物の保管を目的とし別に「倉庫營業規則」を設け手續は簡單に、取扱は叮嚀に、保管は確實に、料金亦低廉に、其の寄託に應じ尙金融の便益上倉荷證券を發行す倉荷證券は其運用を圓滑ならしむるため己に銀行との連絡及諒解あり。

(D) 農林省指定倉庫——政府米の保管を目的とし其の筋の指定による倉庫なり。

(E) 倉庫保管と積合發送——滿洲特産物の積合に依る貨車發送は當埠頭に於ける倉庫保管營業の進展に伴ひ不日實現するに至るへし

(F) 倉庫と火災保險——保管貨物に對しては當埠頭にて火災保險を附す、現在特約の保險會社は三菱海上火災並大正海上火災の兩保險會社なり。

(三) 輸出業務

新興滿洲帝國の經濟的發展に伴ひ我國よりの輸出貨物は近來劃期的増加を來せるを以て、當埠頭は特に大連方面への輸出工作上其の便益を企圖せり。

(A) 當埠頭積の利益左の如し。

(イ) 關東、東北、信越方面より當埠頭に鐵道輸送のものは横濱方面に比し鐵道運賃に於て絶對的に有利なること。

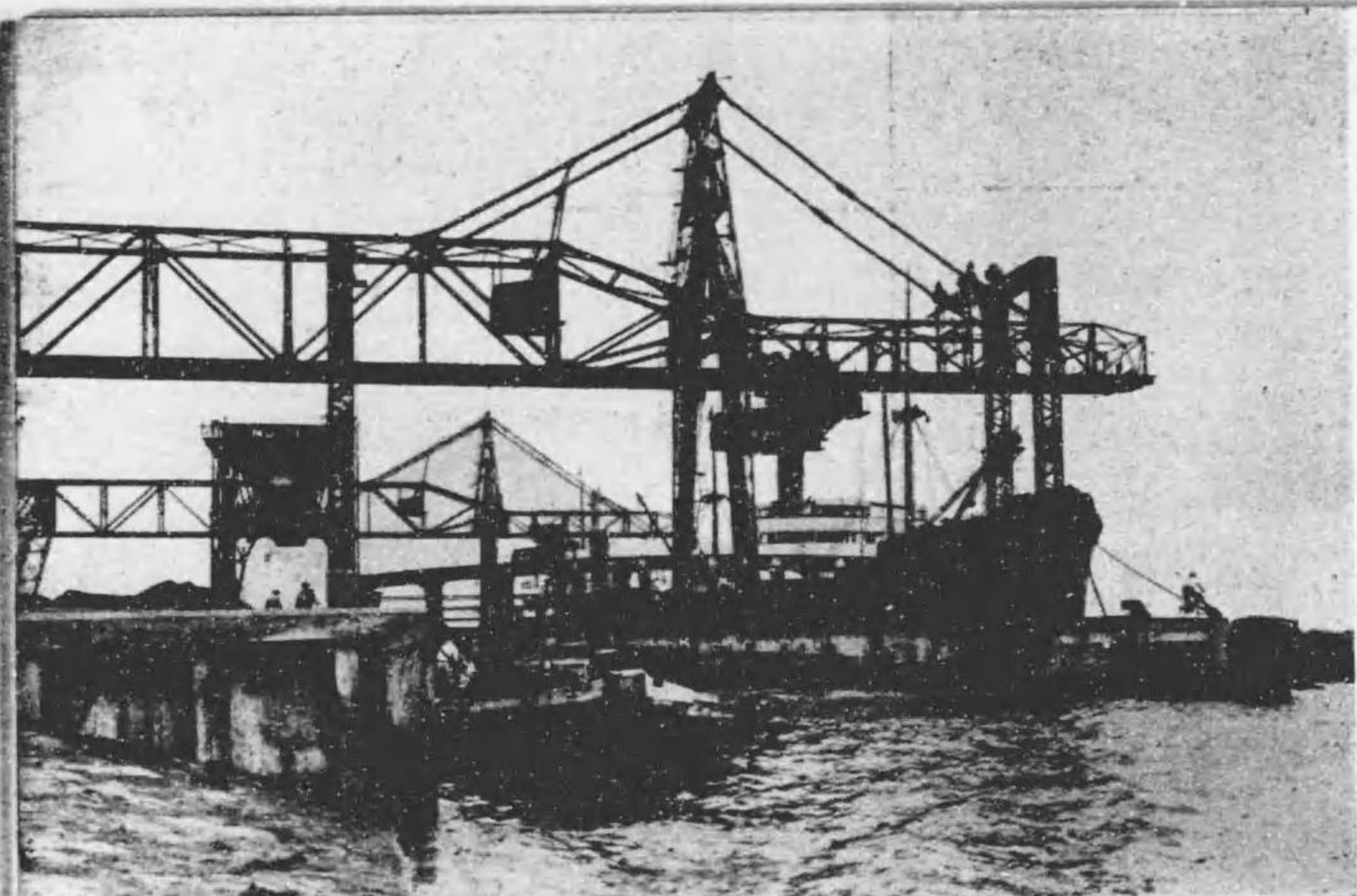
(ロ) 其の他の料金も割安なること。

(ハ) 理想的船車連絡の實現に依り荷傷、濡損其他貨物取扱上の障害を除去し得ること。

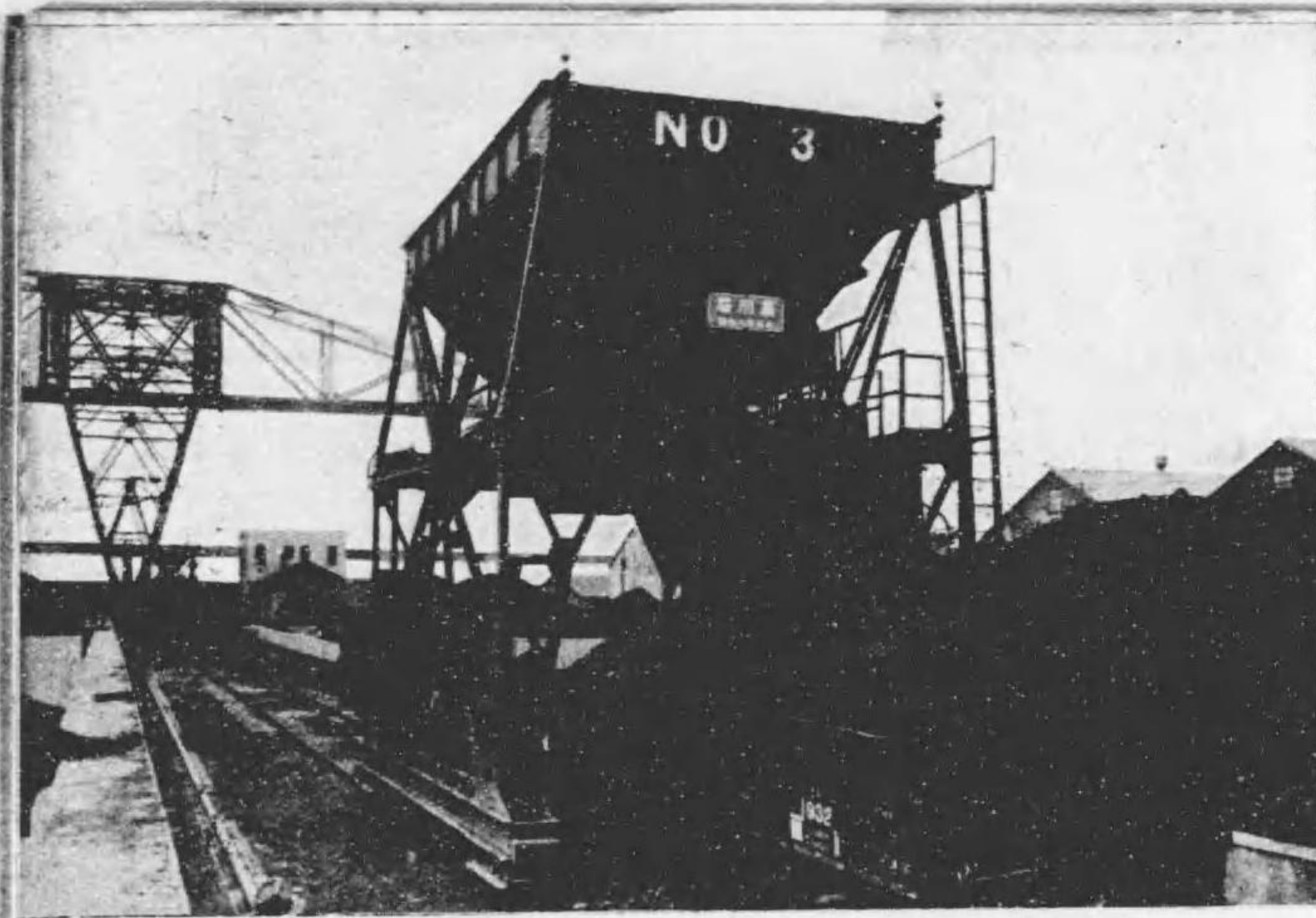
(ニ) 貨物は當埠頭にて直營する熟練人夫に依り懇切且叮嚀に船積せらるること。

(B) 定期船

大連汽船株式會社の定期船は當埠頭と大連間を月三回、當埠頭と營口間を月一回往復するを以て此の定期船を利用することは最も

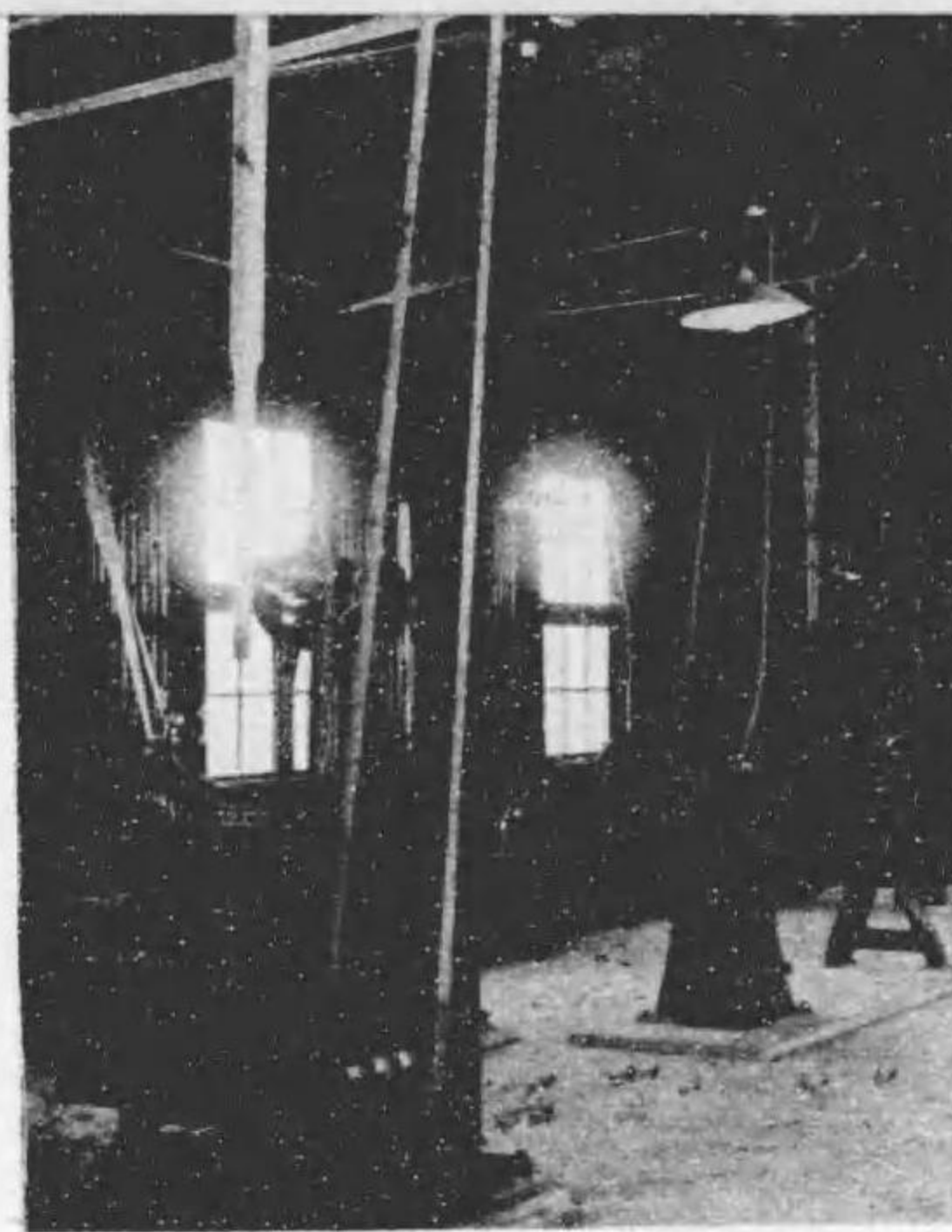


昇開橋及解溜

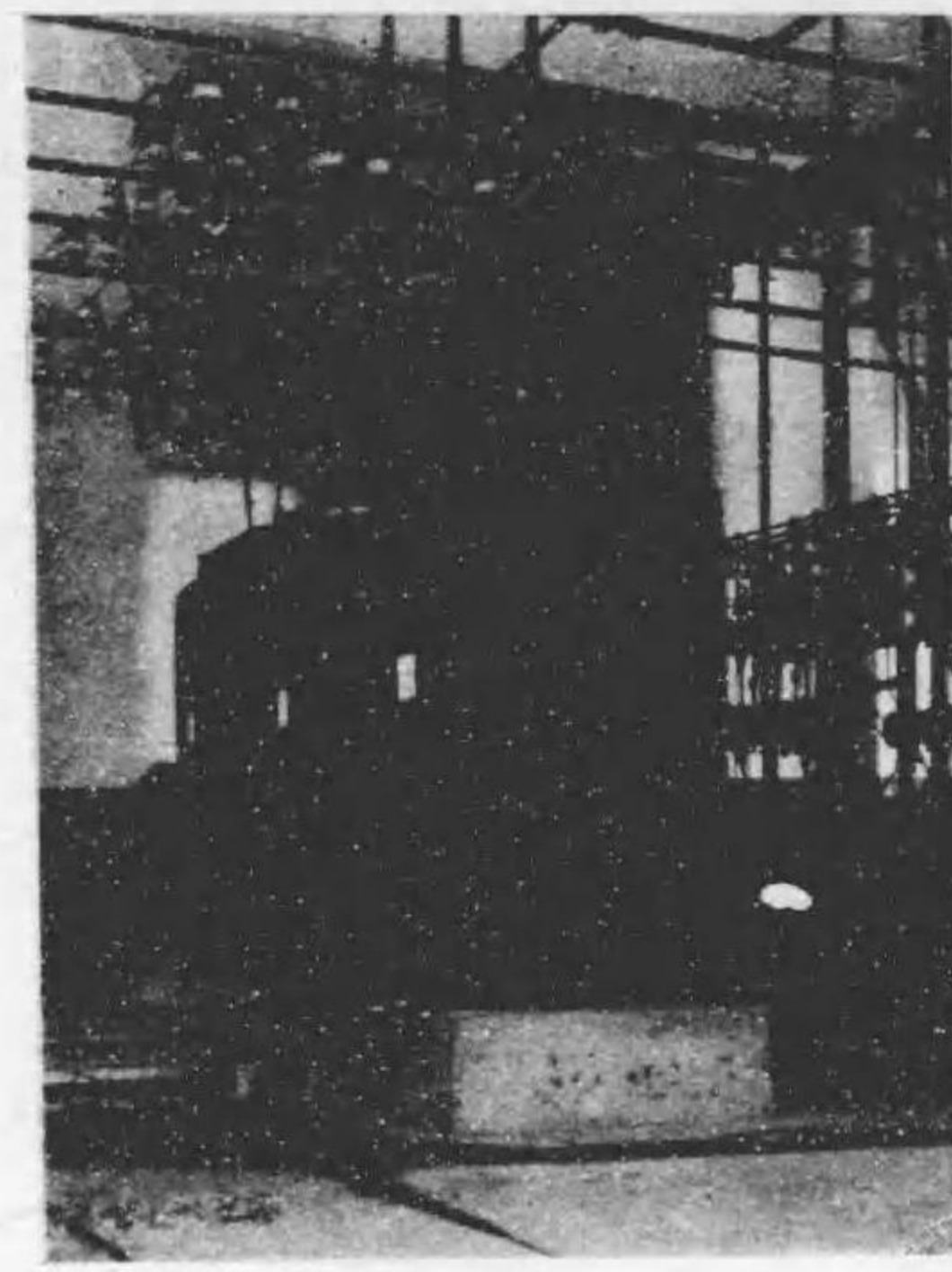


移動ホツパー

- (a) 本機は動力の傳達、切換制御等に於ける複雑なる機械的装置を除去し専ら電氣的機構に依りたること。
- (b) 従つて之れか操作には單に二個の主幹制御器のハンドルに依り凡有聯動、平衡及二重動作か能率の且安全に爲さるること。
- (c) 「スキューモーション」の方法に依り二基同時に相接近せる「ハッチ」の荷役をなし得ること。
- (d) 自動秤量装置に依り捲揚中秤量し且自記し得ること。
- (e) 本器は純國産品なること。
- (ロ) 貯炭場
貯炭場は五、四〇〇坪のコンクリート造にして、十一の區劃(ブロック)となり、貯炭能力は約三〇、〇〇〇噸なり。
- (ハ) 移動式ホツパー四基、固定式二基



修理工場



變電所

便利にして確實なり、將來は他の汽船會社の定期船も着離の豫定なれば早便を利用する機會も増加すべし。

(C) 運送代理業務と特約運送店

當埠頭は出荷の圓滑と迅速を期する爲蒐貨より通關、船積に至る直接代理業務を取扱ひ且つ國際通運株式會社とも蒐貨の特約あり

(イ) 東京附近の同店は最寄の各集貨所に於て蒐貨す。

(ロ) 遠距離よりの小口扱の發送に對しては、臨港鐵道扇町驛の扱として仕向けらるれば該驛よりトラックにて當埠頭に搬入の上船積せらる。

(ハ) 船積貨物にして貸切扱のものは省線濱川崎驛南滿洲鐵道株式會社専用線入日滿倉庫宛に必要書類と共に發送せらるれば通關手續の上直ちに船積せらる。

(ニ) 「トラック」賃、手数料等は別に定めたる料率表に依る。

(ホ) 石炭作業

當埠頭は左記の諸施設により滿洲國産の大宗たる撫順炭に對する全荷役作業をなす。

(A) 設備

(イ) 橋型運搬機(ブリッジトランスポーター) 二基

一基一時間の最高作業能力は二五〇噸一日平均二、〇〇〇噸二基にて一日約四、〇〇〇噸なるを以て六、〇〇〇噸の荷役は二日間を以て完了することを得。

該機の機械的性能は全く世界に誇り得る近代科學の精華にして主たる特徴を擧ぐれば左の如し。

「ホツパー」の容量は一基五〇噸にて貨車並「トラック」積込に至便なり積込能力は三噸の「トラック」積は一分半位、一〇噸の貨車積は五分位にして移動式ホツパー四基にては一時間に四十八輛の積込作業を爲すことを得。

(ニ) 解 溜 場

平行棧橋と陸側岸壁との間に幅員二十米、長さ約三百米の解溜場あり百噸解約五十隻を繋泊收容することを得。

(ホ) 自動秤量機並軌道衡

トラック積石炭を計量する爲特殊の秤量機(計量能力十二噸)を又貨車積石炭を計量する爲、自動式秤量機(計量能力五十噸)を備へ、後者は最新式のものにして列車の走行中にも計量し得らるる特徴を有し當埠頭に於ける一つの誇なり。

(ハ) 昇 開 橋

平行棧橋と陸岸間の水路に解並曳船小蒸汽往來に便する爲可動式渡橋を設く、渡橋は平行線引定規の理を應用し陸側にのみ設けられたる僅か七馬力半の電動機に依り昇降自在にして當埠頭の一異彩なり

(ト) 照 明 塔

石炭棧橋用として二キロの照明塔二塔(雜貨棧橋用として一塔)を設備し夜間作業に使用せらる。

(チ) 此等の諸施設に對して獨立せる變電所及修理工場を有す。

(B) 石炭鐵道運賃

當埠頭よりの運賃を高島驛、隅田川驛及錦糸町驛よりの運賃に比較すれば左の如し。

石炭貨率表

線名	驛着 驛發		高 島		濱 川 崎		隅 田 川		錦 糸 町	
	料 程	料 金	料 程	料 金	料 程	料 金	料 程	料 金		
東 海 道 線	東神奈川	二、五	〇、二六	二、九	〇、四六	四、五、六	一、一七			
	平塚	三、元、三	一、〇四	四、九、七	一、二四	八、二、四	一、八二			
横 濱 線	橋本	三、六、三	〇、九七	四、六、七	一、一七	六、〇、七	一、五〇			
	八王子	四、五、一	一、二七	五、五、五	一、四一	五、九	一、三三			
山 手 線	新宿	三、二、一	〇、九一	二、六、一	〇、七八	一、四、八	〇、五三	三、四、五	〇、九一	
	赤羽	四、二、四	一、一〇	三、六、四	〇、九七	一、〇、九	〇、三元	三、〇、六	〇、八五	
	池袋	三、六、九	〇、九七	三、〇、九	〇、八五	一、〇、〇	〇、三元	二、九、七	〇、八五	
	田端	四、三、一	一、一〇	三、六、一	〇、九七	四、八	〇、二六	二、四、五	〇、七二	
高 崎 線	大宮	五、九、五	一、四一	五、三、五	一、三三	二、八、〇	〇、七八	四、七、七	一、二四	
	高崎	一、四、二	二、四七	二、八、二	二、三、六	一、〇、七	二、二、四	一、三、四	二、三、六	
横須賀線	横須賀	三、七、九	〇、九七	四、八、三	一、二四	八、一、〇	一、八三			

五 日 道 市	道鐵武南	線本北東	線本武總	線磐常	線井ノ篠	線本央中	東武鐵道	線尾足	線毛兩	線光日
拜島	立川	川口	千葉	助川	松本	岡谷	伊勢崎	足尾	前橋	日光
	矢向	王子	小名木川	土浦	鹽尻	甲府	飯田町	桐生	足利	宇都宮
	五五、〇	四五、〇	九一、三	一八九、六	二四八、三	一九九、八	一五七、〇	一四四、〇	一四九、〇	一七九、二
	一、七二	一、一七	一、九六	三、〇一	三、四八	三、二二	二、六八	二、五九	二、五九	二、九〇
	一、五〇	三九、〇	八五、三	一八三、四	二九七、七	二二〇、二	一五〇、八	一九九、五	一四一、〇	一七三、二
	一、七二	一、〇四	一、八九	三、〇一	三、六〇	三、二二	二、六八	三、二二	二、四七	二、九〇
	四一、〇	一三、五	四七、九	一四六、〇	二五六、一	二〇六、六	二五、三	一七四、〇	一二五、五	一四七、七
	一、一〇	〇、四六	一、二四	二、五八	三、六〇	三、二二	二、三六	二、九〇	二、二五	二、五八
	六、七	三三、二	三五、一	一四七、四	二七五、八	二二六、九	一一五、五	一九三、七	一三三、二	一六七、四
	一、五〇	〇、九一	〇、九七	二、五八	三、八四	三、二六	二、五三	三、二二	二、四七	二、七九
	一、七三	〇、七八	〇、二六	一、九〇	三、七二	二、六八	二、五三	二、五三	二、三七	二、三六

右表の通り東北本線、高崎線、足尾線等に対しては當埠頭は絶対に有利なり。

五、通關事務

(イ) 通關上の協力と代理業務

輸出入貨物に關する通關手續は荷主又は其の專屬回漕店或は運送店にて取扱はれ差支なきのみならず、當埠頭は貨物取引上將又貨車發送促進上積極的に援助協力するは勿論荷主の依頼により通關手續の代理業務を營み通關手續の迅速を期し居るを以て横濱港第一區の場合に比し何等の遲延なし。

(ロ) 通關上の便利

(A) 當埠頭は税關貨物取扱人の免許を受け輸出入貨物の通關に練達せる専門の従業員を置き通關上の相談に

應し其の他利便を供與す。

(B) 當埠頭には税關官吏派出所の設あり貨物輸出入申告、輸入貨物簡易検査等殆んど横濱の本關に於けると同一の手續により貨物の引取をなすことを得。

(C) 税關出張所は横濱税關に於て日下工事中にして不日竣工の曉には通關上全然本關と同一の取扱を受くるに至る。

六、施設一覽

一、全用地面積 一九七、七〇〇秤 (六五、一二八坪)

内石炭用地 三九、〇〇〇秤 (一二、八九三坪)

一般貨物用地 一一、七〇〇秤 (三、八六八坪)

鐵道用地 二二、二〇〇秤 (八、三三九坪)

其他用地 一二四、八〇〇秤 (四一、二五八坪)

二、專用鐵道線 延長六、五軒

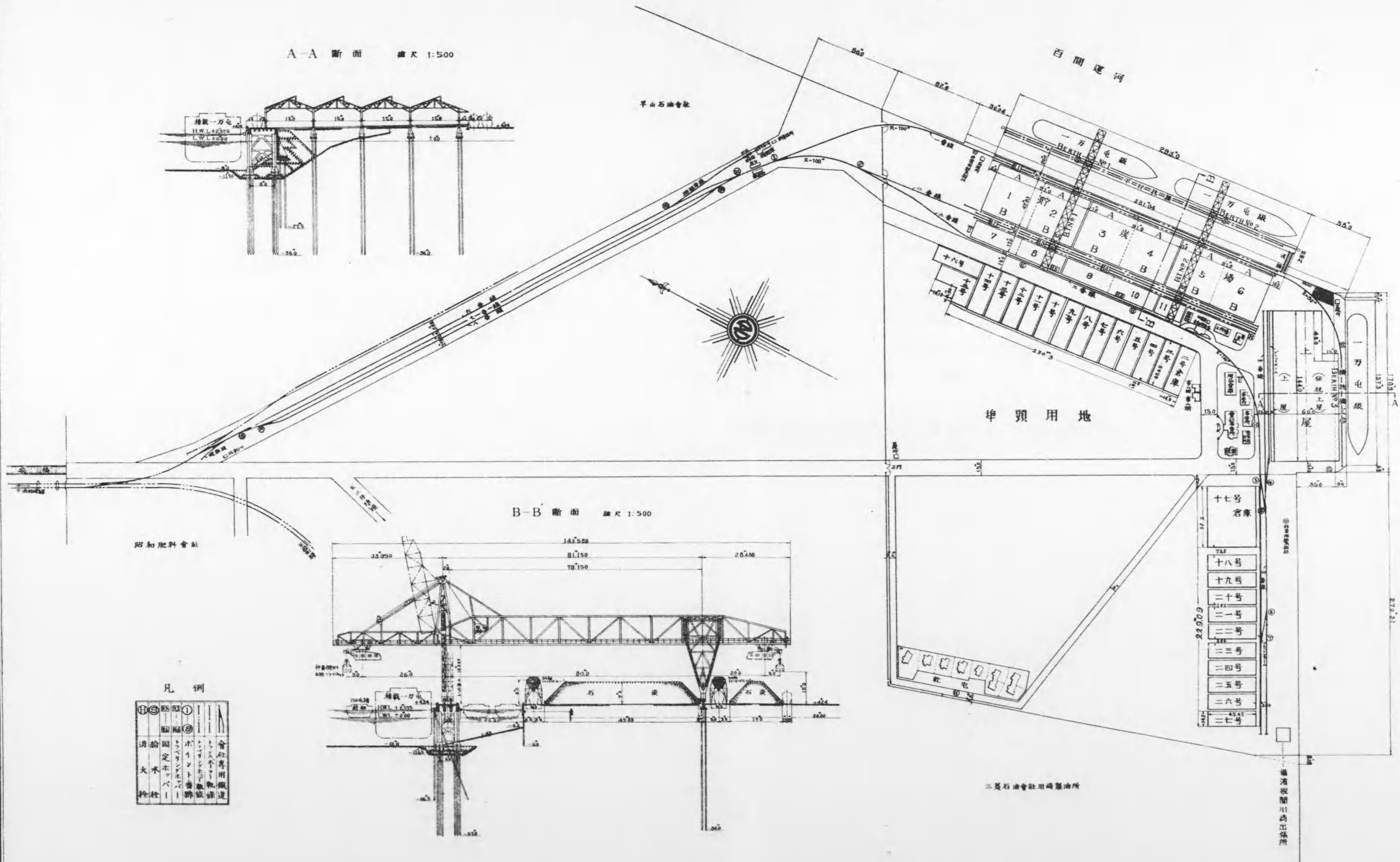
三、繫船岸水深 石炭及一般雜貨棧橋最低干潮面下 九、〇九米。

解船用護岸 三、三三米

四、石炭荷役設備 1、繫船用平行棧橋幅員七米、全長二九三米一萬噸級船舶を同時に二隻繫留し得。

陸岸よりの距離 二〇、二二米

日滿倉庫株式會社川崎埠頭一般圖



A-A 断面 縮尺 1:500

B-B 断面 縮尺 1:500

凡例

①	鋼筋	②	鋼筋	③	鋼筋	④	鋼筋	⑤	鋼筋
⑥	鋼筋	⑦	鋼筋	⑧	鋼筋	⑨	鋼筋	⑩	鋼筋
⑪	鋼筋	⑫	鋼筋	⑬	鋼筋	⑭	鋼筋	⑮	鋼筋
⑯	鋼筋	⑰	鋼筋	⑱	鋼筋	⑲	鋼筋	⑳	鋼筋
㉑	鋼筋	㉒	鋼筋	㉓	鋼筋	㉔	鋼筋	㉕	鋼筋
㉖	鋼筋	㉗	鋼筋	㉘	鋼筋	㉙	鋼筋	㉚	鋼筋
㉛	鋼筋	㉜	鋼筋	㉝	鋼筋	㉞	鋼筋	㉟	鋼筋
㊱	鋼筋	㊲	鋼筋	㊳	鋼筋	㊴	鋼筋	㊵	鋼筋
㊶	鋼筋	㊷	鋼筋	㊸	鋼筋	㊹	鋼筋	㊺	鋼筋
㊻	鋼筋	㊼	鋼筋	㊽	鋼筋	㊾	鋼筋	㊿	鋼筋

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

陸岸と平行棧橋間には大型艀船を同時二隻並へ荷役することを得。

2、石炭荷役機 二基

様式橋型運搬器 (ブリッジトランスポーター)

兩脚間ノ距離 (八〇、九米 一基)
七九、九米 一基

橋梁全長 一三八、三八米

橋梁高 一八、四八米

全馬力 一、二八〇馬力

自記秤量装置 自動的に正味重量を計量、累計、印字す

荷役能力 一時間五十回 (一回五吨)

3、石炭貨車積機械 四臺

様式 移動ホツパー

幅員 五、一五米 高サ八、四八米

滿載せる「ホツパーカー」は三貨車(一五吨)の積込可能なり、

固定「ホツパー」二基

4、軌道衡 秤量能力 五〇吨

5、自動車秤量機 秤量能力 一二吨

6、曳船小蒸汽 (圓島丸)

總噸數 二三四噸三五 六五〇馬力 一隻

7、發動機船 一隻

8、専用線用蒸汽機關車 一輛

9、貯炭場

幅員 六五、四四米 (三六間) 長 二七二、七二米 (一五〇間)

面積 一七、八五〇坪 (五、四〇〇坪)

約 三〇、〇〇〇噸の貯炭能力なり。

五、一般貨物荷役設備

1、繫船用横棧橋 全長一五七米

上屋前面「エプロン」の幅員 六、〇六米

二、二二米

一萬噸級船舶ヲ繫船シ得。

2、上屋 一棟

幅員 六〇米 長サ 一四三、六三米

面積 七、九二〇坪 (二、四〇〇坪)

構造 鐵骨、鐵板張、「スレート」葺、平家

貨物保管能力 一〇、〇〇〇噸

3、倉庫

木造、鐵網「コンクリート」スレート葺 二五棟

鐵筋「コンクリート」造 一棟

鐵筋「コンクリート」造(建築豫定のもの) 一棟

五、〇〇〇坪

八〇〇坪

一、〇〇〇坪

◎附錄 統計表
(1) 滿洲特産物ノ横浜港へノ輸入高

年 月	大豆 粕				雜 穀			
	總枚數	總應數	橫濱揚	東京揚	總袋數	總應數	橫濱揚	東京揚
昭和4年1月	641,371	17,317	12,121	5,196	447,150	31,939	23,357	9,582
2	708,300	19,125	12,433	6,692	260,611	23,384	16,368	7,016
3	729,233	19,645	13,751	5,894	182,829	15,235	9,902	5,333
4	866,070	23,384	16,368	7,016	161,131	13,428	9,399	4,029
5	965,452	26,068	18,247	7,821	123,182	10,265	7,185	3,080
6	1,221,531	33,982	23,787	10,195	127,230	9,088	6,361	2,727
7	268,940	7,261	4,719	2,542	255,442	18,246	10,949	7,297
8	331,179	8,942	6,249	2,693	126,431	9,031	6,321	2,710
9	899,736	24,183	14,718	9,465	110,930	7,924	5,150	2,774
10	78,990	2,133	1,386	747	130,481	9,320	6,524	2,796
11	142,700	3,853	2,504	1,349	258,523	18,466	12,926	5,540
12					249,356	17,811	10,686	7,125
合 計	6,853,501	185,893	126,283	59,610	2,453,296	184,137	124,128	60,009
同 5年1月	953,300	25,740	18,018	7,722	344,174	24,584	17,208	7,376
2	1,342,394	36,245	23,559	12,686	373,807	26,701	18,690	8,011
3	975,500	26,339	18,437	7,902	285,698	20,407	14,284	6,123
4	895,685	24,184	15,719	8,465	213,253	15,232	10,356	4,876
5	1,226,847	33,125	23,187	9,938	172,976	12,355	8,648	3,707
6	747,000	20,169	14,118	6,051	166,305	11,879	7,621	4,258
7	126,036	3,403	2,211	1,192	115,661	8,262	5,783	2,479
8	5,500	149	104	45	112,076	8,005	5,603	2,402
9	182,500	4,928	3,203	1,725	108,656	7,761	4,811	2,950
10	293,625	7,982	5,587	2,395	102,933	7,353	5,147	2,206
11	168,374	4,547	2,953	1,594	125,011	8,929	6,250	2,679
12	205,944	3,651	2,555	1,096	216,932	15,495	10,846	4,649
合 計	7,124,705	190,462	129,651	60,811	2,337,487	166,963	115,247	51,716

年 月	大豆 粕				雜 穀			
	總枚數	總應數	橫濱揚	東京揚	總袋數	總應數	橫濱揚	東京揚
同 6年1月	709,200	19,149	13,404	5,745	258,716	18,480	12,936	5,544
2	714,600	19,295	13,506	5,789	266,913	19,065	13,345	5,720
3	1,417,964	38,286	26,800	11,486	329,397	23,529	14,117	9,412
4	2,032,693	54,887	38,418	16,465	302,649	21,617	15,231	6,386
5	1,734,325	46,827	32,778	14,049	216,434	15,460	10,822	4,638
6	1,109,600	29,960	20,972	8,988	141,497	10,107	7,074	3,033
7	253,300	6,840	3,788	3,052	166,171	11,869	9,495	2,374
8	220,260	5,947	4,162	1,785	179,400	12,814	8,969	3,845
9	979,513	26,447	18,712	7,735	199,792	14,271	9,989	4,282
10	831,700	22,456	14,596	7,860	132,859	9,490	6,643	2,847
11	490,440	13,242	9,269	3,973	311,702	22,265	15,595	6,680
12	561,072	15,149	9,846	5,303	365,061	26,076	18,253	7,823
合 計	11,054,667	298,481	206,251	192,230	2,870,591	205,043	142,459	62,584
同 7年1月	1,789,185	48,308	33,815	14,493	392,971	28,068	19,647	8,421
2	1,045,102	28,138	19,696	8,442	329,652	23,547	16,482	7,065
3	932,400	25,175	16,363	8,812	353,088	25,221	17,654	7,567
4	204,370	5,518	3,862	1,656	216,098	15,436	10,805	4,631
5	865,800	23,377	15,195	8,182	296,903	21,207	14,844	6,363
6	473,500	12,785	8,949	3,836	101,137	7,224	5,056	2,168
7	220,000	5,940	3,761	2,179	77,492	5,535	3,874	1,661
8	31,000	837	585	252	68,755	4,911	3,437	1,474
9	211,100	5,700	3,705	1,995	113,392	8,099	5,669	2,430
10	232,900	6,289	4,402	1,887	135,554	9,693	6,778	2,903
11	223,800	6,043	3,927	2,116	269,396	19,171	13,419	5,752
12	189,500	5,117	3,581	1,536	275,860	19,704	13,792	5,912
合 計	6,418,657	173,227	117,841	55,386	2,629,298	187,806	131,457	56,349

年 月	大豆 粕				雜 穀			
	總 枚 數	總 應 數	橫 濱 揚	東 京 揚	總 袋 數	總 應 數	橫 濱 揚	東 京 揚
同 8年1月	1,183,100	31,944	22,360	9,584	392,297	28,021	19,614	8,407
2	845,900	22,840	15,988	6,852	220,505	15,750	11,025	4,725
3	404,900	10,933	7,653	3,280	233,705	16,693	11,685	5,008
4	309,800	8,365	5,855	2,510	150,705	10,764	7,534	3,230
5	388,110	10,479	7,335	3,144	204,272	14,591	9,484	5,107
6	888,980	20,003	13,001	7,002	159,356	11,383	7,968	3,415
7	92,600	2,501	1,450	1,051	133,775	9,555	6,688	2,867
8	17,000	460	368	92	137,331	9,809	6,866	2,943
9	223,300	6,024	4,216	1,808	151,072	10,791	7,600	3,191
10	688,800	18,598	13,018	5,580	228,274	16,305	11,421	4,884
11	285,000	7,695	5,386	2,309	259,846	18,560	12,962	5,598
12	144,380	3,899	2,729	1,170	252,856	18,061	12,642	5,419
合 計	5,471,870	143,741	99,359	44,382	2,523,994	180,283	125,489	54,794

(ロ) 撫順炭及内地炭ノ横濱港及東京移輸入高

○既往五ヶ年横濱、川崎、東京移輸入炭表

年度	内 地 炭	撫 順 炭	其ノ他外國炭	合 計
昭和四年	1,142,024 ^噸 940,837	319,779 ^噸 73,543	193,643 ^噸 94,693	1,655,446 ^噸 1,109,073 896,095
昭和五年	947,595 859,363	266,037 61,635	139,134 80,014	1,354,766 1,001,012 918,295
昭和六年	1,806,958	329,672	219,148	3,274,073
昭和七年	488,043 1,053,521	324,013 145,022	105,893 121,119	917,949 1,319,662 1,103,020
昭和八年	1,541,564	469,035	227,012	3,340,631
昭和七年 横濱 川崎 東京 合計	339,882 1,104,105	328,558 150,115	103,630 63,643	701,590 1,317,863 1,217,741
昭和八年 横濱 川崎 東京 合計	1,443,987	478,673	167,273	3,307,674
昭和八年 横濱 川崎 東京 合計	419,418 1,244,646	146,280 392,375	134,892 90,701	701,590 1,727,722 1,676,945
昭和八年 合計	1,664,064	539,655	225,593	4,106,257

(A) 滿蒙輸出入表

(A) 輸入ノ部 (豆粒、雜穀及石灰ヲ除ク)

品種別	年度		昭 和 七 年	昭 和 八 年
	昭 和 六 年	昭 和 七 年		
食鹽	43,257 ^担	615,359 ^圓	17,268 ^担	291,975 ^圓
硫酸安母尼	7,386	437,855	1,881	114,471
揮發油	3,664	300,790	1,286	136,327
土砂	1,272	8,906		
銑鐵	25,645	687,501	55,184	1,505,036
其ノ他ノ金屬			1,582	20,373
其ノ他ノ鐵	2,856	57,873	7,962	226,023
硝子	139	1,798	4,017	120,230
動物性肥料	557	66,793	3,475	561,662
礦物製物品			1,129	59,550
鑛物磁器			462	17,583
陶器			1,437	105,365
其ノ他ノ雜品	19,283	2,064,114	202	16,130
計	104,059	4,240,989	108,448	5,569,658
			84,563	2,394,933
			225,723	4,913,809

(B) 輸出ノ部

品種別	年度		昭 和 七 年	昭 和 八 年
	昭 和 六 年	昭 和 七 年		
小麥	21,792 ^担	1,303,943 ^圓	68,241 ^担	6,483,167 ^圓
砂糖	7,123	610,744	15,984	1,530,372
金屬針	1,359	681,173	4,363	1,980,326
石油	1,614	242,600	3,880	518,419
鐵管	35	4,055	3,262	617,976
紙其ノ他ノ製	1,103	673,681	2,963	241,623
紙其ノ他ノ製	1,059	87,695	2,779	2,187,628
紙其ノ他ノ製	684	216,449	2,532	230,998
紙其ノ他ノ製	139	32,200	939	215,300
紙其ノ他ノ製			1,174	334,077
紙其ノ他ノ製			1,017	273,354
紙其ノ他ノ製			1,303	186,219
紙其ノ他ノ製			993	18,500
紙其ノ他ノ製			21,114	6,217,016
計	43,737	5,981,156	130,544	21,034,975
			138,222	15,170,785
			14,957	1,788,447
			11,238	3,774,101
			4,932	472,359
			7,110	1,704,988
			2,327	361,194
			7,849	5,619,106
			5,974	473,218
			2,580	647,070
			2,382	422,023
			2,082	699,588
			13,483	1,829,005
			4,549	93,896
			102,129	27,234,078
			319,814	60,289,858

昭和九年九月二十五日印刷
昭和九年十月一日發行

著者
行作者權

日滿倉庫株式會社

川崎埠頭事務所

川崎市扇町三十七番地

電話
川崎

二、五三六番	(埠頭係)
二、四二八番	(同分室)
二、〇六五番	(會計、鐵道、機械係)
二、六三六番	(所長、米穀係)
三、四二六番	(庶務係)
三、三六三番	(稅關專用)

終

